

資料―1

伝承ロード研修会
参加者アンケート調査結果
報告書

2026年5月13日
（一財）3.11伝承ロード推進機構

目次

1.　研修会の概要
1-1：2025年度の研修会の総括 p.2
1-2：研修会参加組織（一覧） p.3
1-3：研修会の行程日数 p.4
1-4：2025年度の研修事業で見学した施設一覧 p.5
1-5：研修会の実施方面別における見学施設の利用回数と研修者数 p.6
1-6：研修会の開催時期、実施組織 p.8
2.　アンケートの概要
2-1：研修会参加者の属性 p.9
2-2：研修事業に対する参加者の満足度 p.10
2-3：興味のあった施設や場所、印象に残った施設や場所（上位15施設） p.11
2-4：見学前から興味のあった施設や場所（形態別） p.12
2-5：見学後に印象に残った施設や場所（形態別） p.13
参考資料①：見学前から興味のあった施設・場所 p.14
参考資料②：見学後に印象に残った施設・場所 p.15
参考資料③：興味が高い割合と印象が高い割合の比較（施設別） p.16
参考資料④：見学前の興味と見学後の印象の差（施設別） p.17
2-6：アンケート自由記載のカテゴリー整理 p.18
2-7：アンケート自由記載の意見整理（総括） p.21
参考資料⑤：アンケート自由記載の意見（抜粋） p.22
参考資料⑥：アンケート用紙（縮小版） p.27
参考資料⑦：ツアー企画 p.28

1. 伝承ロード研修会の概要

1-1：2025年度の研修会の総括

- 前年度の研修会に比べ実施回数、参加人数とも微減であった。ただし、１回当りの参加人数は微増となった。
- 研修活用施設の減少は、１泊２泊以上の研修が減り移動範囲の制約などが考えられる。
- 満足度（とても良かった）については、昨年とほぼ同程度であった。

	2024年度（前年度）	2025年度（当年度）	
実施回数	22回	20回（2回減）	● 前年度から当年度は20回と2回減少した。
参加人数	433名（19.6名/回）	411名（22名減）（20.6名/回）	● 前年度433名から、当年度は411名と22名参加者が減少した。 １回当たりの参加者数は20.6名となり前年度と比べ微増であった。
研修活用施設数	41施設	34施設（7施設減）	● 研修活用施設は34施設と前年度に比べ7施設減となった。
満足度「とても良かった」割合	88.4%	88.2%（0.2%減）	● 研修会のアンケートによる満足度は、「とても良かった」が 88.2%と前年度と同程度であった。

1-2：研修会参加組織（一覧）

- 2025年度は20回の研修会を実施し、411名の参加者が3.11伝承ロードの震災伝承施設等に訪れた。

No.	出発日	終了日	形態	参加団体名	参加者数	アンケート数
1	4月21日	4月22日	1泊2日	その他	18	4
2	5月21日	5月21日	1日	ゼネコン	31	24
3	5月26日	5月26日	1日	建設関係団体	16	16
4	5月27日	5月27日	1日	建設関係団体	21	19
5	6月5日	6月5日	1日	コンサルタント	14	13
6	6月7日	6月7日	1日	建設関係団体	15	6
7	6月25日	6月25日	1日	ゼネコン	24	16
8	6月27日	6月28日	1泊2日	建設関係団体	18	9
9	7月29日	7月29日	1日	ゼネコン	32	25
10	9月11日	9月11日	1日	建設関係団体	22	20

No.	出発日	終了日	形態	参加団体名	参加者数	アンケート数
11	10月8日	10月9日	1泊2日	建設関係団体	22	19
12	10月8日	9月10日	2泊3日	コンサルタント	10	4
13	10月16日	10月17日	1泊2日	建設関係団体	21	17
14	10月22日	10月24日	2泊3日	建設関係団体	26	22
15	10月29日	10月29日	1日	建設関係団体	23	21
16	10月30日	10月31日	1泊2日	建設関係団体	19	16
17	11月21日	11月21日	1日	建設関係団体	29	13
18	12月4日	12月4日	1日	ゼネコン	23	21
19	12月15日	12月15日	1日	建設関係団体	15	12
20	3月24日	3月24日	半日	建設関係団体	12	8
				合計	411	305

1-3：研修会の行程日数

- 研修行程で一番多いのは１日の12回であった。
- １泊２日の行程は5回と、前年度に比べ3回減少した。
- 平均行程日数は1.5日と前年度とほぼ同程度であった。

行程日数	2025年度	2024年度	増減
半日	1	3	-2
１日	12	9	3
１泊２日	5	8	-3
２泊３日	2	2	0
計	20	22	-2
平均行程日数（日）	1.5	1.5	0

1-4：2025年度の研修会で見学した施設一覧

- 34箇所の震災伝承施設等を学びの場として活用した。

No	見学施設	利用回数	No	見学施設	利用回数
1	石巻市震災遺構大川小学校	12	18	宮古市災害資料伝承館	1
2	東日本大震災津波伝承館	6	19	気仙中学校	1
3	高田松原津波復興祈念公園	6	20	宝来館（語り部講話）	1
4	気仙沼市東日本震災遺構・伝承館	5	21	三陸鉄道震災学習列車	1
5	南三陸町震災復興祈念公園	5	22	釜石鵜住居復興スタジアム（復興まちづくり）	1
6	シーパルピア女川（復興まちづくり）	4	23	鵜住居川水門・防潮堤（インフラ）	1
7	東日本大震災・原子力災害伝承館	4	24	陸前高田市区画整理事業（復興まちづくり）	1
8	震災遺構浪江町立請戸小学校	4	25	気仙大橋（インフラ見学）	1
9	気仙沼横断橋・大島大橋（インフラ）	4	26	南三陸ホテル観洋語り部バス	1
10	みやぎ東日本大震災津波伝承館	3	27	塩竈市津波防災センター	1
11	南三陸町東日本大震災伝承館南三陸311メモリアル	3	28	震災遺構仙台市立荒浜小学校	1
12	出島大橋（インフラ）	3	29	大谷川浜小積浜道路整備工事（インフラ）	1
13	田老防潮堤・津波遺構たろう観光ホテル	2	30	野蒜ケ丘団地（復興まちづくり）	1
14	いのちをつなぐ未来館	2	31	仙台港の復旧（インフラ見学）	1
15	石巻市震災遺構門脇小学校	2	32	久之浜・大久ふれあい館	1
16	石巻南浜津波復興祈念公園	2	33	福島県復興祈念公園（インフラ）	1
17	石巻かわまちづくり事業（復興まちづくり）	2	34	東京電力廃炉資料館	1

1-5：研修会の実施方面別における見学施設の利用回数と研修者数

- 研修会の実施方面別では、岩手方面（岩手県及び宮城県）5回、宮城方面（宮城県内）10回、福島方面（宮城県及び福島県）4回、その他は1回と宮城県内の研修会が多い。
- 岩手方面では東日本大震災津波伝承館、高田松原津波復興祈念公園。宮城方面はみやぎ東日本大震災津波伝承館、石巻市震災遺構大川小学校。福島方面は東日本大震災・原子力災害伝承館、震災遺構浪江町立請戸小学校を利用する研修会が多い。

（説明）：研修行程が宮城･岩手両県に跨がる場合を「岩手方面」、宮城県内だけの場合を「宮城方面」、宮城・福島両県に跨る場合を「福島方面」、それ以外を「その他」と区分し訪問施設をカウント

		岩手県												宮城県			
岩手方面（岩手・宮城） 5回	施設名	東日本大震災津波伝承館	高田松原津波復興祈念公園	田老防潮堤・津波遺構たろう観光ホテル	いのちをつなぐ未来館	釜石鵜住居復興スタジアム	鵜住居川水門・防潮堤	三陸鉄道震災学習列車	震災遺構気仙中学校	陸前高田市区画整理事業（インフラ見学	気仙大橋（インフラ見学）	宮古市災害資料伝承館	宝来館（語り部講話）	石巻市震災遺構 大川小学校	気仙沼湾横断橋 ・気仙沼大島大橋	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	南三陸町震災復興祈念公園
	訪問回数	5	5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	1	1
	研修者数	125	125	47	47	26	26	26	26	26	22	21	21	72	36	18	18

1-5：研修会の実施方面別における見学施設の利用回数と研修者数

		宮城県													
宮城方面（宮城県内） 10回	施設名	石巻市震災遺構大川小学校	シーパルピア女川(震災遺構旧女川交番)	南三陸町震災復興祈念公園	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	出島大橋（ｲﾝﾌﾗ）	旧北上川築堤工事（ｲﾝﾌﾗ）	石巻市震災遺構門脇小学校	みやぎ東日本大震災津波伝承館	南三陸３１１メモリアル	東松島市野蒜ケ丘団地（ｲﾝﾌﾗ）	大谷川浜小積浜道路整備事業（ｲﾝﾌﾗ）	石巻南浜津波復興祈念公園	塩竈市津波防災センター	仙台港の復旧（ｲﾝﾌﾗ）
	訪問回数	7	4	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1
	研修者数	143	81	68	66	66	52	47	34	34	29	22	19	12	12

		宮城県				福島県				
福島方面（福島・宮城） 4回	施設名	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	南三陸ホテル観洋語り部バス	石巻市震災遺構大川小学校	気仙沼湾横断橋・気仙沼大島大橋	震災遺構浪江町立請戸小学校	東日本大震災・原子力災害伝承館	東京電力廃炉資料館	福島県復興祈念公園	久之浜・大久ふれあい館
	訪問回数	1	1	1	1	4	3	1	1	1
	研修者数	14	14	14	14	68	54	23	16	15

		岩手県		宮城県						福島県
その他（岩手、宮城、福島） 1回	施設名	東日本大震災津波伝承館	高田松原津波復興祈念公園	石巻市震災遺構大川小学校	南三陸３１１メモリアル	南三陸町震災復興祈念公園	みやぎ東日本大震災津波伝承館	気仙沼湾横断橋・気仙沼大島大橋（ｲﾝﾌﾗ）	震災遺構仙台市立荒浜小学校	東日本大震災・原子力災害伝承館
	訪問回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	研修者数	10	10	10	10	10	10	10	10	10

1-6：研修会の開催時期、実施組織

- 開催時期は10月が6回と年間を通して一番多いが、前年度との同一の傾向は見られない。
- 実施組織別では、建設関係が19回で、うち建設関係の団体が13回と一番多い。
- その他として労働組合からの依頼があった。

回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2025	1	3	4	1	0	1	6	1	2	0	0	1	20
2024	0	5	3	2	0	3	4	4	1	0	0	0	22
増減	1	-2	1	-1	0	-2	2	-3	1	0	0	1	-2

		実施回数		
		2025	2024	増減
建設関係	ゼネコン	4	5	-1
	地元企業	0	0	0
	コンサルタント	2	3	-1
	団体	13	10	3
	小計	19	18	1
一般企業		0	2	-2
官公庁		0	0	0
その他		1	2	-1
計		20	22	-2

2. アンケートの概要

2-1：研修会参加者の属性

- 参加者は合計411名、うち305名がアンケートに回答。
- アンケート回答者の性別では、72.5%が男性、年代別では20代が34.4%を占める。
- アンケート回答者の居住地別では、宮城県が最多の120名だが東北地方だけでなく全国各地から研修会に参加している。

- 305名の内訳は、男性221名（72.5%）、女性84名（27.5%）である。
- 年代別では、20代が105名と最多（34.4%）、次いで60代以上が64名（21.0%）、50代が52名（17.1%）の順に多い。
- 参加者の約半数（49.5%）は被災地エリアからで、中でも宮城県が最多の120名となっている。一方、東京（26名）、新潟（26名）など被災地周辺エリアからの参加も一定数おり、東海・近畿地方や九州地方からの参加者もいた。

参加者の性別・割合

男	221	72.5%
女	84	27.5%
合計	305	100.0%

参加者の年代別数値・割合

10代	15	4.9%
20代	105	34.4%
30代	36	11.8%
40代	33	10.8%
50代	52	17.1%
60代以上	64	21.0%
合計	305	100.0%

参加者の居住地別人数

被災地エリア（151名：49.5%）

青森県	6
岩手県	9
宮城県	120
福島県	16

北海道・東北エリア（28名：9.2%）

北海道	12
秋田県	9
山形県	7

関東エリア（69名：22.6%）

栃木県	2
茨城県	4
東京都	26
群馬県	1
埼玉県	6
千葉県	16
神奈川県	12
長野県	2

北陸エリア（38名：12.6%）

新潟県	26
富山県	10
石川県	2

東海・近畿エリア（12名：1.0%）

岐阜県	1
愛知県	6
大阪府	5

中国・四国エリア（4名：1.3%）

広島県	3
高知県	1

九州・沖縄エリア（3名：1.0%）

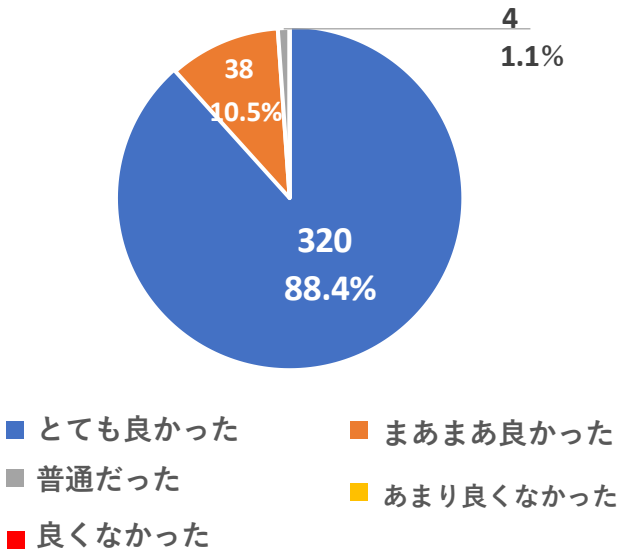
福岡県	1
宮崎県	1
鹿児島県	1

2-2：研修事業に対する参加者の満足度

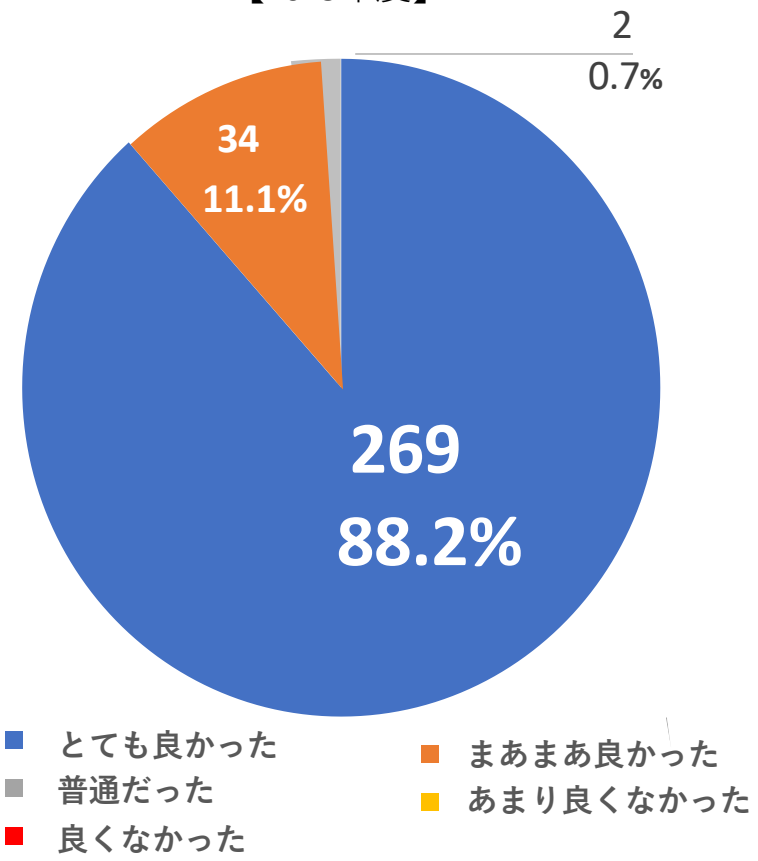
- 参加者のうち88.2%の人が「とても良かった」と回答。
- 「まあまあ良かった」(11.1%)を含めると、99.3%の人が満足と答えた。
- 前年度に引き続き、高い満足度を維持している。（2024年度98.9%→2025年度99.3%）

- 参加者で、アンケートに回答いただいた305名のうち、「とてもよかった」と回答した人は全体の269名（88.2%）を占めた。
- また、「まあまあ良かった」との回答も34名（11.1%）となり、両者を合わせると、303名の人たちが研修事業に満足したこととなる。その割合は全体の99.3%に上り、**基本、参加者全員が満足していると評価**できる。

（参考：2024年度の満足度）



【2025年度】



2-3：興味のあった施設や場所、印象に残った施設や場所（上位15施設）

- 「興味のあった施設や場所」「印象に残った施設や場所」の上位15施設・場所をみると、以下のようになる。
- **興味があった施設や場所は「塩竈市津波防災センター」、印象に残った施設や場所は「石巻市震災遺構大川小学校・大川伝承館」がトップ**であった。
- **「石巻市震災遺構大川小学校・大川伝承館」**は、例年、どちらも上位に位置しており、「もの言わぬ語り部」と言われる震災遺構による伝承効果の高い施設となっている。

興味があった施設や場所（上位15）

No.	施設・場所	回答数	総回答数	割合
1	塩竈市津波防災センター	7	8	87.5%
2	石巻市震災遺構大川小学校・大川伝承館	115	176	65.3%
3	石巻市震災遺構門脇小学校	11	17	64.7%
4	大谷川浜小積浜道路整備事業（インフラ施設）	12	20	60.0%
5	東京電力廃炉資料館	11	21	52.4%
6	震災遺構浪江町立請戸小学校	32	63	50.8%
7	三陸鉄道震災学習列車	10	22	45.5%
8	出島大橋（インフラ施設）	26	60	43.3%
9	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	33	78	42.3%
10	福島県復興祈念公園（整備中）	6	16	37.5%
10	高田松原津波復興祈念公園	36	96	37.5%
12	田老防潮堤・津波遺構たろう観光ホテル	14	39	35.9%
13	気仙沼湾横断橋・気仙沼大島大橋（インフラ施設）	16	45	35.6%
14	南三陸町震災復興祈念公園	17	48	35.4%
15	東日本大震災・原子力災害伝承館	18	53	34.0%

印象に残った施設や場所（上位15）

No.	施設・場所	回答数	総回答数	割合
1	石巻市震災遺構大川小学校・大川伝承館	166	176	94.3%
2	塩竈市津波防災センター	7	8	87.5%
3	大谷川浜小積浜道路整備事業（インフラ施設）	16	20	80.0%
4	石巻市震災遺構門脇小学校	13	17	76.5%
5	震災遺構浪江町立請戸小学校	39	63	61.9%
6	田老防潮堤・津波遺構たろう観光ホテル	24	39	61.5%
7	三陸鉄道震災学習列車	13	22	59.1%
7	気仙中学校	13	22	59.1%
9	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	45	78	57.7%
10	東京電力廃炉資料館	11	21	52.4%
11	東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIﾒﾓﾘｱﾙ）	41	96	42.7%
12	いのちをつなぐ未来館	16	39	41.0%
13	シーパルピア女川（震災遺構旧女川交番）	26	66	39.4%
14	東日本大震災・原子力災害伝承館	20	53	37.7%
15	鵜住居川水門・防潮堤（インフラ施設）	8	22	36.4%

2-4：見学前から興味のあった施設や場所（形態別）

（P14の参考資料①を参照のこと）

- アンケート提出者（305名）の興味のあった施設や場所を形態別に整理すると、最も高い割合を示したのが「震災遺構展示型施設」（52.1%）となった。次いで、「社会資本関連施設」（34.5%）、「復興祈念公園」（34.1%）などが続く。
- 津波の脅威がわかる「震災遺構展示型施設」に参加者の関心が集められている傾向がうかがえる。
- 尚、形態別の上位項目は右記の通りとなっている。

興味のあった施設や場所（形態別）

No.	形態	対象施設数	回答数	総回答数	割合
1	語り部関連	3	12	52	23.1%
2	社会資本関連施設	6	60	174	34.5%
3	展示中心型施設	9	80	296	27.0%
4	復興祈念公園	4	62	182	34.1%
5	震災遺構展示型施設	7	208	399	52.1%
6	復興まちづくり関連施設	5	33	157	21.0%

興味のあった施設や場所の上位3施設（形態別）

1	三陸鉄道震災学習列車	10	22	45.5%
2	南三陸ホテル観洋語り部バス	2	13	15.4%
3	宝来館（語り部講話）	0	17	0%

1	大谷川浜小積浜道路整備工事	12	20	60.0%
2	出島大橋	26	60	43.3%
3	気仙沼湾横断橋・気仙沼大島大橋	16	45	35.6%

1	塩竈市津波防災センター	7	8	87.5%
2	東京電力廃炉資料館	11	21	52.4%
3	東日本大震・原子力災害伝承館	18	53	34.0%

1	高田松原津波復興祈念公園	36	96	37.5%
1	福島県復興祈念公園（整備中）	6	16	37.5%
3	南三陸町震災復興祈念公園	17	48	35.4%

1	石巻市震災遺構大川小学校・大川伝承館	115	176	65.3%
2	石巻市震災遺構門脇小学校	11	17	64.7%
3	震災遺構　浪江町立請戸小学校	32	63	50.8%

1	石巻かわまちづくり事業	11	34	32.4%
2	シーパルピア女川（震災遺構旧女川交番含む）	15	66	22.7%
3	陸前高田市区画整理事業	4	22	18.2%

2-6：見学後に印象に残った施設や場所（形態別）

（P15の参考資料②を参照のこと）

- アンケート提出者（305名）の印象に残った施設や場所を形態別に整理すると、最も高い割合を示したのが「震災遺構展示型施設」（75.2%）となった。次いで、「展示中心型施設」（39.5%）、「社会資本関連施設」（35.1%）などが続く。
- 傾向としては、**実際に被害にあった遺構や、被災を受けた人による講座・講話などが参加者にとって印象の高い**ものとなっている。
- 尚、形態別の上位項目は右記の通りとなっている。

印象に残った施設や場所（形態別）

No.	形態	対象施設数	回答数	総回答数	割合
1	語り部関連	3	18	52	34.6%
2	社会資本関連施設	6	61	174	35.1%
3	展示中心型施設	9	117	296	39.5%
4	復興祈念公園	4	43	182	23.6%
5	震災遺構展示型施設	7	300	399	75.2%
6	復興まちづくり関連施設	5	49	157	31.2%

印象に残った施設や場所の上位3施設（形態別）

1	三陸鉄道震災学習列車	13	22	59.1%
2	南三陸ホテル観洋語り部バス	3	13	23.1%
3	宝来館（語り部講話）	2	17	11.8%
1	大谷川浜小積浜道路整備事業	16	20	80.0%
2	鵜住居川水門・防潮堤	8	22	36.4%
3	出島大橋	19	60	31.7%
1	塩竈市津波防災センター	7	8	87.5%
2	東京電力廃炉資料館	11	21	52.4%
3	東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）	41	96	42.7%
1	南三陸町震災復興祈念公園	12	48	25.0%
1	高田松原津波復興祈念公園	24	96	25.0%
3	石巻南浜津波復興祈念公園	3	16	18.8%
1	石巻市震災遺構大川小学校・大川伝承館	166	176	94.3%
2	石巻市震災遺構門脇小学校	13	17	76.5%
3	震災遺構浪江町立請戸小学校	39	63	61.9%
1	シーパルピア女川（震災遺構旧女川交番含む）	26	66	39.4%
2	野蒜ケ丘団地	4	13	30.8%
3	石巻かわまちづくり事業	10	34	29.4%

参考資料①：見学前から興味のあった施設・場所

- アンケートの記述に基づき割合の高い順に整理。

No.	施設名・場所	回答数	総回答数	割合
1	塩竈市津波防災センター	7	8	87.5%
2	石巻市震災遺構大川小学校・大川伝承館	115	176	65.3%
3	石巻市震災遺構門脇小学校	11	17	64.7%
4	大谷川浜小積浜道路整備事業（インフラ施設）	12	20	60.0%
5	東京電力廃炉資料館	11	21	52.4%
6	震災遺構浪江町立請戸小学校	32	63	50.8%
7	三陸鉄道震災学習列車	10	22	45.5%
8	出島大橋（インフラ施設）	26	60	43.3%
9	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	33	78	42.3%
10	福島県復興祈念公園（整備中）	6	16	37.5%
10	高田松原津波復興祈念公園	36	96	37.5%
12	田老防潮堤・津波遺構たろう観光ホテル	14	39	35.9%
13	気仙沼湾横断橋・気仙沼大島大橋（インフラ施設）	16	45	35.6%
14	南三陸町震災復興祈念公園	17	48	35.4%
15	東日本大震災・原子力災害伝承館	18	53	34.0%
16	石巻かわまちづくり事業（復興まちづくり）	11	34	32.4%
17	東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMIメモリアル)	28	96	29.2%
18	シーパルピア女川（震災遺構旧女川交番含む）	15	66	22.7%
19	南三陸311メモリアル	5	24	20.8%
20	陸前高田市区画整理事業（復興まちづくり）	4	22	18.2%
21	宮古市災害資料伝承館	3	17	17.6%
22	みやぎ東日本大震災津波伝承館	4	26	15.4%
22	南三陸ホテル観洋語り部バス	2	13	15.4%
22	野蒜ケ丘団地（復興まちづくり）	2	13	15.4%
25	石巻南浜津波復興祈念公園	3	22	13.6%
25	気仙中学校	3	22	13.6%
25	鵜住居川水門・防潮堤（インフラ施設）	3	22	13.6%
28	仙台港（インフラ施設）	1	8	12.5%
29	気仙大橋（インフラ施設）	2	19	10.5%
30	いのちをつなぐ未来館	4	39	10.3%
31	釜石鵜住居復興スタジアム（復興まちづくり）	1	22	4.5%
32	宝来館（語り部講話）	0	17	0%
32	震災遺構　仙台市立荒浜小学校	0	4	0%

参考資料②：見学後に印象に残った施設・場所

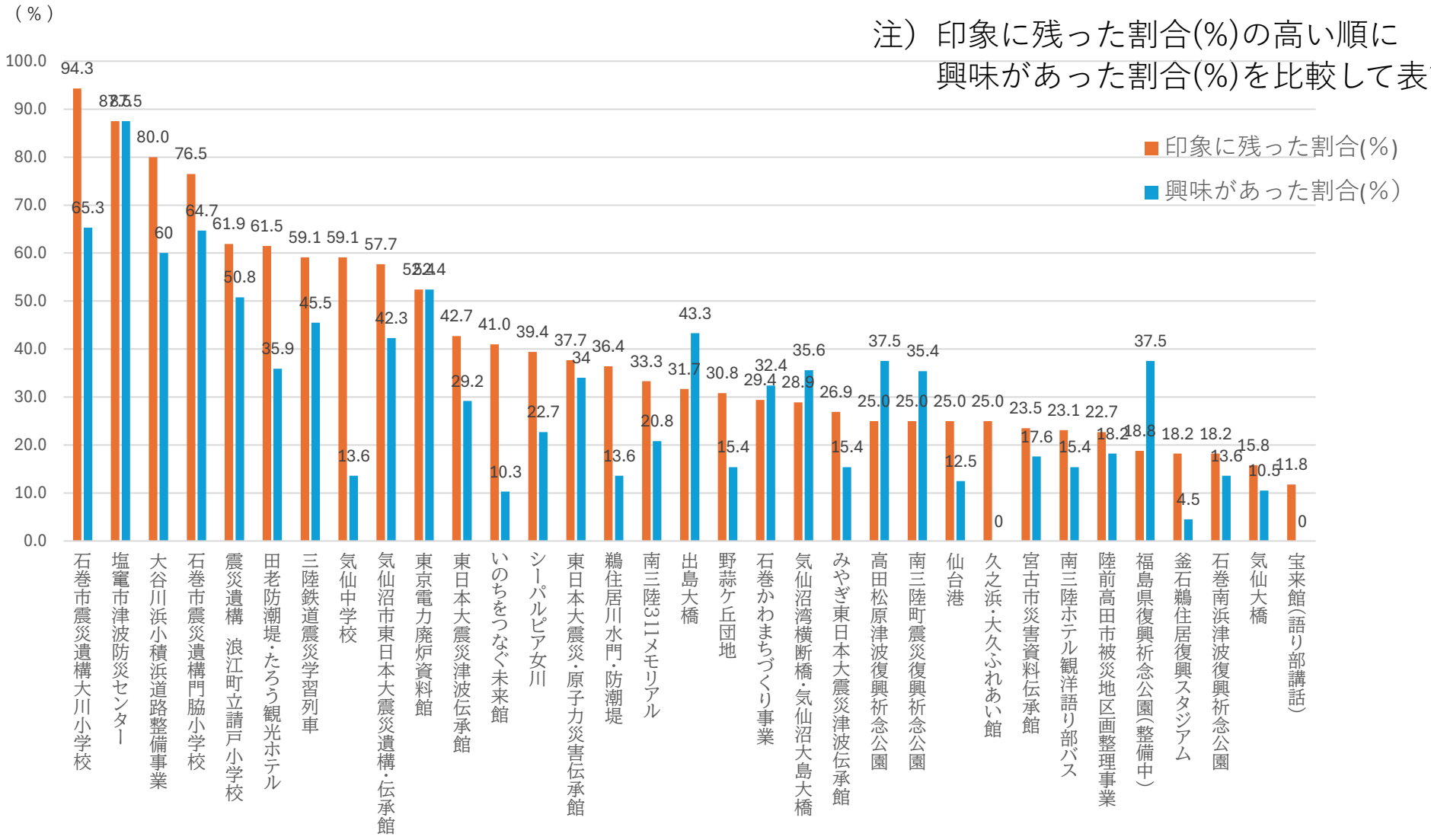
- アンケートの記述に基づき割合の高い順に整理。

No	施設名・場所	回答数	総回答数	割合
1	石巻市震災遺構大川小学校・大川伝承館	166	176	94.3%
2	塩竈市津波防災センター	7	8	87.5%
3	大谷川浜小積浜道路整備事業（インフラ施設）	16	20	80.0%
4	石巻市震災遺構門脇小学校	13	17	76.5%
5	震災遺構浪江町立請戸小学校	39	63	61.9%
6	田老防潮堤・津波遺構たろう観光ホテル	24	39	61.5%
7	三陸鉄道震災学習列車	13	22	59.1%
7	気仙中学校	13	22	59.1%
9	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	45	78	57.7%
10	東京電力廃炉資料館	11	21	52.4%
11	東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）	41	96	42.7%
12	いのちをつなぐ未来館	16	39	41.0%
13	シーパルピア女川（震災遺構旧女川交番）	26	66	39.4%
14	東日本大震災・原子力災害伝承館	20	53	37.7%
15	鵜住居川水門・防潮堤（インフラ施設）	8	22	36.4%
16	南三陸311メモリアル	8	24	33.3%
17	出島大橋（インフラ施設）	19	60	31.7%

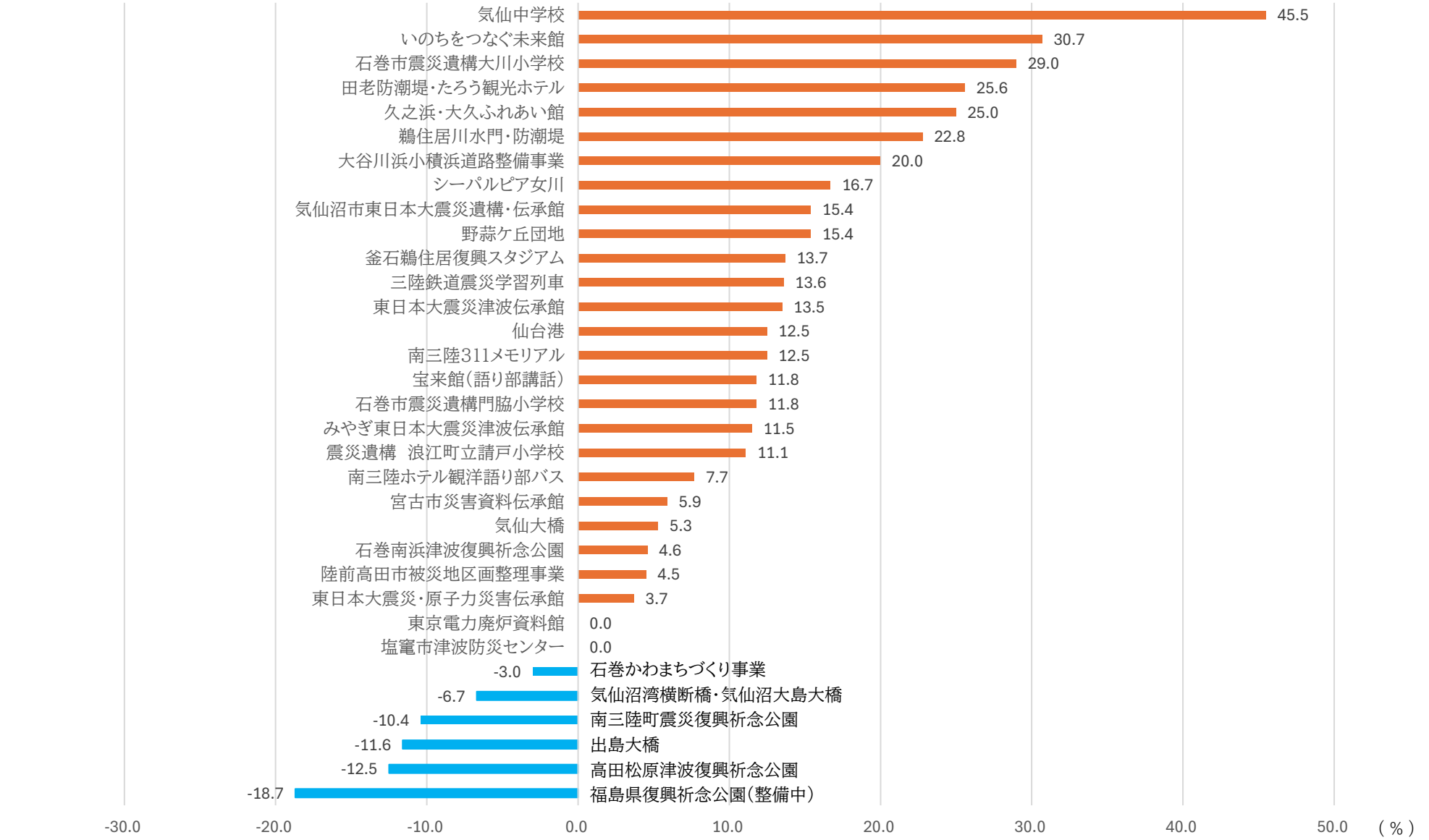
No	施設名・場所	回答数	総回答数	割合
18	野蒜ケ丘団地（復興まちづくり）	4	13	30.8%
19	石巻かわまちづくり事業（復興まちづくり）	10	34	29.4%
20	気仙沼湾横断橋・気仙沼大島大橋（インフラ施設）	13	45	28.9%
21	みやぎ東日本大震災津波伝承館	7	26	26.9%
22	高田松原津波復興祈念公園	24	96	25.0%
22	南三陸町震災復興祈念公園	12	48	25.0%
22	仙台港（インフラ施設）	2	8	25.0%
22	久之浜・大久ふれあい館	3	12	25.0%
26	宮古市災害資料伝承館	4	17	23.5%
27	南三陸ホテル観洋語り部バス	3	13	23.1%
28	陸前高田市区画整理事業（復興まちづくり）	5	22	22.7%
29	福島県復興祈念公園（整備中）	3	16	18.8%
30	釜石鵜住居復興スタジアム	4	22	18.2%
30	石巻南浜津波復興祈念公園	4	22	18.2%
32	気仙大橋（インフラ施設）	3	19	15.8%
33	宝来館（語り部講話）	2	17	11.8%

参考資料③：興味のあった割合と印象に残った割合の比較（施設別）

注）印象に残った割合(%)の高い順に
興味があった割合(%)を比較して表記



参考資料④：見学前の興味と見学後の印象の差（施設別）



⇐ 興味優先

印象（実績）重視 ⇒

2-6：アンケート自由記載のカテゴリー整理（1）

アンケートの9）研修会の感想と10）機構に対する要望について、以下のカテゴリーで意見整理を行った。
（P22～26 参考資料⑤を参照のこと）

研修会に対する主要な意見のカテゴリー整理

研修事業（全407コメント）

①伝承の重要性（教訓や被災の伝承、家族等に伝える発信等）	（34コメント）
②災害の自分事化（防災意識の醸成、自分の行動規範）	（48コメント）
③災害への恐怖（被災の大きさ、規模、影響）	（16コメント）
④備えの重要性（防災インフラ、訓練、BCP）	（15コメント）
⑤プログラム評価（行程、スケジュール、時間配分）	（41コメント）
⑥コンテンツ評価（伝承施設、ガイド、語り部、宿泊施設等）	（12 コメント）
⑦研修会の評価（継続期待、他人に勧める）	（46コメント）
⑧再訪意向、再参加意向（また来たい、友達・家族に勧めたい）	（20コメント）
⑨謝辞	（33コメント）
⑩感想	（142コメント）

2-6：アンケート自由記載のカテゴリー整理（2）

今回の研修会を通じて参加者が感じたことを整理する。（P22～26 参考資料⑤を参照のこと）

①伝承の重要性（教訓や被災の伝承、家族等に伝える発信等）

34コメント

- 当時の様子を見聞したことで、初めて被災地や伝承施設を訪れた方だけでなく、何度目かの方も、本機構の活動目的である「伝承の重要性」や「教訓の継承の重要性」を本研修事業でしっかりと受け止めた回答が多数寄せられた。
- 今回の研修で学んだ事を家族や友人・知人などの身近な人たちにも伝えていきたいといった回答も多く見られた。

②災害の自分事化（防災意識の醸成、自分の行動規範）

48コメント

- 研修を通じて災害を自分事化でき、今後災害が起こったときに自分や家族の命を守ることができるよう、災害時の行動や対策方法など家族と話し合うという意見が多くあった。

③災害の恐怖（被災の大きさ、規模、影響）

16コメント

- 実際に遺構を見たり語り部の話を聞くことで、地震や津波の恐ろしさを実感することができたとの回答が多かった。

④備えの重要性（防災インフラ、訓練、BCP）

15コメント

- 橋などのインフラ整備だけではなく、街にある全ての物、人、暮らしに災害への備えが必要だと思ったとの意見もあった。
- 避難経路の確認等など事前の準備・想定の重要性を学んだという意見が多かった。

⑤プログラムの評価（行程、スケジュール、時間配分）

41コメント

- 移動距離が長すぎる、一ヶ所をじっくり見られる時間配分をしてほしいという意見が複数あった。
- 語り部や役場職員の方々から説明いただけるのが大変貴重だと思ったという意見もあった。

⑥コンテンツ評価（伝承施設、ガイド、語り部　等）

12コメント

- 実際にガイドや現地の人の話を聞くことで、より当時の悲惨さや過酷さを知ることができたり理解が深まったとの意見があった。
- 災害時の状況や人々の対応について詳細に話が聞けて良かったとの意見があった。

2-6：アンケート自由記載のカテゴリー整理（3）

今回の研修会を通じて参加者が感じたことを整理する。（P22～26 参考資料⑤を参照のこと）

⑦研修会の評価（継続、伝える工夫）

46コメント

- 震災を知らない若い世代に伝承し続けてほしいという意見が多く寄せられた。
- 震災から14年経ち風化が懸念されるので、研修事業をもっと広く知ってもらい継続してほしいとの意見が複数あった。。

⑧再訪意向、再参加意向（別のコース、個人的にも来たい　等）

20コメント

- 「もう一度参加したい。」「別のコースも参加したい」という意見だけでなく、プライベートで再訪したいなどの声も聞かれた。

⑨謝辞（よかった、感謝など）

33コメント

- 東日本大震災を思い出すとともに、当時の状況や復興の取組について深く学ぶことができて良かったという意見や、減災に向けた準備の大切さを考えるとても良い機会をいただいたなどの意見があった。

⑩感想

142コメント

- 津波の恐怖、避難の重要さ、防災施設の重要さなど、様々なことを学んでためになったという意見のほか、人々が震災での経験を学びに変え、対策していることに改めて気づかされたという意見もあった。

2-7：アンケート自由記載の意見整理（総括）

アンケートの9）研修会の感想と10）機構に対する要望について、自由記載として意見整理を行った。
（P22～26参考資料⑤を参照のこと）

- 意識の面では、「伝承の重要性」「災害の自分事化」という、本研修事業のそもそもの狙いが参加者に着実に届いていることを確認できるコメントが多数あった。
- また、防災や災害に関する意識を再認識させる機会になったとのコメントも多い。具体的には「3.11や復興の実情を知るきっかけ」「災害・被害の恐ろしさを再認識するきっかけ」「備えの重要性を考えるきっかけ」に関するコメントが多数寄せられた。
- その意味では、**本研修会は参加者に対して一定の価値を提供しているもの**と評価できる。
- 一方、研修会そのものに関わるコメントも多数寄せられた。
- 一つは、今回の研修会を体験して、再度、被災地を訪問したいという声や、**この事業の価値をより広めていくべき**とする声で、「再訪意向・拡充意向」に関わるコメントは全体で20あった。プログラムそのものの評価に関わるコメントが41、**伝承施設やガイド、語り部に関する「コンテンツ」に対するコメントが12あり、ガイドや語り部から直接お話を聞くことで教訓をより理解できるとの声が多い**。
- 以下、バスの移動時間で見ていただいた映像に関するコメントや、移動時間、視察時間に関わる「スケジュール時間配分」に関するコメントなども多い。
- また、プログラムそのものに対する「意見・課題・改善」に関するもの、「謝辞」に関する声も多く寄せられた。

参考資料⑤：アンケート自由記載の意見（抜粋）

①伝承の重要性
（教訓や被災の伝承、家族等に伝える発信等）

- 改めて震災の記憶と記録を残していく必要性を再認識した。
- 震災を知らない人、これから生まれてくる命にも、このような不幸な災害を継承していく必要があると感じました。
- 今回の被害を風化させないように、教訓等を自身の周りにも共有していきたいです。
- 大きな被害を受けた現地を実際に拝見して、大震災で受けた被害、得た経験を今後とも風化させてはならないと強く感じました。
- 個人ではなかなか行けない場所、聞けない体験に触れて、私もぜひ皆んなに伝えたいと強く思えた。
- 被災から14年を過ぎ、被災された街は新しく生まれ変わって、観光客も来るような施設や伝承施設が整備されて来ましたが、災害の事実はこれからも孫子の世代に語り継いで行って欲しいと考えています。
- 自分自身を見つめ直すきっかけにもなり、また震災の恐ろしさやこのような出来事が10年以上前にあったということに改めて考えることがありました。家族や友人にも伝えていきたいと思います。
- 時間が経つにつれ東日本大震災を知らない人が増えていくが、これからもたくさんの人たちに伝承していくことが大切だと思った。
- どの場所も勉強になり、これから子供たちや、家族に伝えたいと思いました。
- こういった災害の記録は絶対に後世に残す必要があると改めて思いました。

②災害の自分事化
（防災意識の醸成、自分の行動規範）

- この震災は後世に必ず伝え、また同じような被害が出ないように受け継いでいかなくてはならないという当事者意識を持つことができた。
- 今後起きるかもしれない大地震に備えて、今自分ができることで最善を尽くし、仕事や日常生活に反映させていきたいです。
- 今自分ができることは、防災意識を強く持つことだと思う。頭に入れるだけではなく、それを行動にうつせるように日々大切にしていきたい。自分は体験していない、当該者ではないからではなく、自分に必ずくると考え、これからを生きていきたい。
- 次にいつ起こるかわからない災害で自分や家族の命を守るためにたくさん考えること、決めることがあると感じた。
- 発災時期、場所、時間など様々な状況を想定した対応、行動を家族で話したい。
- 経験していないとなかなか震災を自分事としてとらえることが難しいと思いますが、実際に現地に行き被災した方からの話を聞いたり、被災した建物を自分の目で見て、感じることで、震災をより身近に感じることができ、今後の生活に少しでも活かせればと思いました。
- 本日の研修を通じて、災害を自分事化する事を再認識した。 ハザードマップの再確認や、災害時の行動、対策方法など家族と改めて話し合っておかなければならないと感じた。
- 避難訓練の大切さやハザードマップを信じるのではなく、もしものことを考え自分たちがこれからどうしていかなければならないのか、家族で話し合う機会を設けなければいけないなと思いました。

③災害への恐怖
（被災の大きさ、規模、影響）

- 日々の日常が非日常に災害で変わってしまう恐ろしさを学びました。
- 実際に見ること、話を聞くことで震災、津波の脅威的な規模感や当時のリアルな状況がひしひしと伝わった。
- 改めて、地震や津波の恐ろしさを深く感じました。
- いつ・どこで起こるか分からない災害というものが、改めて恐ろしいものだと感じました。
- 地震や津波の被害を見聞きし、津波の被害が大きかった場所では今でも居住不可となっているなど、自然の脅威に震撼しました。
- テレビを見たり、過去にも震災遺構を訪ねて勉強したりして、知っている・分かっているつもりになってしまっていましたが、今日改めて自然の猛威の恐ろしさを痛感しました。
- 実際被災した方のお話しを聞いたり、現物を見たりして、3.11がものすごいものだと改めて認識できた。
- 今回の研修を経て津波の高さや，津波で壊れた建造物などを見て，改めて被害状況を知ることができました。
- 実際に被災した建物を見る事で津波の怖さがよく理解することができました。
- 今回この研修会に参加し、実際に遺構を見たり語り部さんのお話を聞いたことで、津波の恐ろしさを肌で感じることができました。

④備えの重要性
（防災インフラ、訓練、BCP　等）

- 現場でも現地で現物を現実に捉えることでさまざまな危険、リスクを考え危険を予知することができるので、現地KY活動の大切さを改めて学びました。
- 今回の研修を意味のある経験にするためにも、日頃の準備と想定を怠らないようにしたい。
- 非常事態において、人は最適な対応ができなくなってしまうことを知り、備えの必要性を実感しました。
- 災害に備えることや、いざというときに行動できるように想定していくことが大切だと感じた。
- 避難経路の確認等の事前の対応策を考えることの重要性を学ぶことができた。
- 日頃からの準備や心構えが、生死を分けることになるんだと認識しました。
- 実際に足を運び、被災状況や被災者のお話を聞く事で、より地震や津波に対しての意識を持ち、事前に準備、想定しておく事の重要性を学びました。
- 今回の研修を通して、津波の脅威を再認識出来たとともに何事も準備が必要だと思った。
- 橋だけではなく、街にある全ての物、人、暮らしに災害への備えが必要だと思いました。それを知れて本当によかったです。
- 全体を通じ、防災教育の重要性を改めて認識させられた。
- 少し薄れつつあった震災の記憶を、再認識し備える気持ちの大切さも改めて感じた。

参考資料⑤：アンケート自由記載の意見（主なコメント）

⑤プログラムの評価
（行程、スケジュール、時間配分）

- バスの中で見せてくださった動画も勉強になりました。
- 今後参加者がもっともっと若くなっていくと思うので、訪問する施設について予備知識のための事前資料があれば、もっと深く興味を持って話を聞けるのではないかと感じた。
- 施設の数や内容はバランスがとてもよく、大変に勉強になりました。
- 遺構や施設以外の移動時間でも震災について勉強ができたので、とても充実していました。ありがとうございました。
- バス内も分かりやすい解説やDVDがあり、とても良かったです。
- バスの中でのアナウンスや説明等もあり、無駄のない有意義な２日間を過ごすことができました。資料もたくさん用意していただいて、わかりやすい講義、視察、見学となりました。
- 移動距離が長すぎる。一ヶ所をじっくり見れる時間配分をしてほしい。
- 研修会の見学箇所が、色々な観点の施設等でバランス良く多岐にわたり、大変興味深く、勉強になった。
- 今回初めて参加しましたが、とても内容の濃いものだったと思います。語り部や役場職員の方々から説明いただけるのは大変貴重だと思いました。
- もう少しゆっくりと見られたらと思いました。
- 施設の見学だけでなく、移動時のビデオやご説明など、非常に有意義な研修をさせていただきました。

⑥コンテンツ評価
（伝承施設、ガイド、語り部、宿泊施設等）

- 大川小学校の語り部さんの、守るのは建物でもない、自分自身だという言葉が心に残った。
- どの語り部の方のお言葉も一言一言に重みがあり、また、震災遺構からも多くのことが伝わってきて、胸に刺さりました。
- 災害時の状況や人々の対応についても詳細に話が聞けて良かった。
- 実際にガイドや現地の人からの話を聞くことで、より当時の悲惨さや過酷さを知ることができた。
- 体験者本人の方のお話を聞くことができ、とても印象的であった。
- 現地では語り部の皆さんから貴重なお話を沢山頂いた。
- 場面場面での説明者の案内は、大変と参考になった。
- 語り部の話しはリアルで理解が深まる。
- 各施設のガイドが良かった。よく分かる説明でした。
- 案内の人や語り部の人の話にひきこまれた。
- 塩竈市津波防災センターは塩竈市の被災について詳しく学ぶことができる場所だったことに加え、ガイドの方のお話がとても聞きやすくただ見て回るよりも沢山のことを学べました。

⑦研修会の評価
（継続、伝える工夫）

- 私たちより下の世代は3.11のことをほとんどの人が知らないと思うので今後もこういった伝承を続けて行ってほしいと思いました。
- これからも、震災のことを伝え、災害の危険、防災意識を持っておくことを伝承を通じて高めていってください。
- １４年も経ったが、逆に忘れさられようとしてる今後こそ頻度をあげて実施するべきと思う。
- こう言った研修を続けていることを、色々な人に知ってもらい、多くの人に伝承していただけると良いと思います。
- 会社で毎年実施している避難訓練は形骸化しているように感じますので、まずは経営者にこの研修を体験していただくことが大切だと感じました。できるだけ多くの方に参加させたいと感じました。
- 今回いただいたような貴重な研修機会は今後も続けていただきたいです。次世代に伝えていくことが重要だと思います。
- 様々な説明をしてくれ大変良かった。こういった機会を提供し続けてほしい。
- 東日本大震災には、忘れてはいけない教訓がたくさんあると改めて感じることができた。もっと多くの人がこれに気付いた方が良い。興味はあるけど機会がないという人が多い気がするので、是非今後も活動を続けて欲しいと思う。

⑧再訪意向、再参加意向
（別のコース、個人的も来たい　等）

- いざ、行ってみなきゃ分からないことが多く行けて良かったと思います。また行きたいと思いました。
- 見学場所、バスの中を通して多くの思いに触れられるいい研修会でした。 またの機会にもう一度参加したいと感じるものでした。
- ニュース等で見聞きしてはいましたが、まだまだ知らないことがあると実感しました。また、機会があれば参加したいと思いました。
- このような研修会に参加するのは初めてでしたが、実際にトンネル工事の現場を見たり、バスの中でDVDを観たりすることを通して、とても勉強になりました。また機会があれば参加したいと思いました。
- 思ってた以上に震災の事がわかり、橋梁の見学など充実した2日間でした。 また参加したいとも思っていますが、まだ参加されてない方には勧めたいと思う研修でした。
- 研修場所やコースなど良かったです。 また参加したいと思いました。
- 今回参加することができてよかったし、他を含め時間の長い研修会にも参加したいと思った。
- いただいた伝承ロードマップを参考に、プライベートで訪れたいと感じた。

⑨謝辞

- 今回、研修会を企画してくれた方々、また当時の状況をお話ししてくれた方々にはとても感謝しています。
- 定期的に自然災害への備え、減災に向けた準備の大切さを考えるとても良い機会を頂いており感謝しております。
- 東日本大震災を思い出し、また復興に対する取り組みや当時の様子を感じることのできる貴重な経験となりました。
- 今回現地に来て語り部にお話を聞き大変有意義でした。企画していただきありがとうございました。
- 視察した現場各地でそれぞれ内容のある説明を聞くことができてとても有意義な研修でした。 ありがとうございました。
- 今まで知っていそうで知らなかった震災のことを深く知ることができて大変意義深い研修でした。ありがとうございました。
- 震災から15年余り、資料と共に当時を振り返りながら気持ちを新たにすることが出来た。 参加して本当に良かったです。 ありがとうございました。
- この度の研修は、半日という短い時間の中、たくさんのお話を聞かせていただき、丁寧に案内してくださりありがとうございました。
- 説明者により新たに知るものがあり感謝しております。
- 心打たれ身になった研修でした。ありがとうございました。

⑩感想

- 震災後、被災者の前を向いて生きていこうという姿勢が本当に学ばないといけないことであると感じた。
- 災害が起きた当時の様子や物を見ることで災害の悲惨さや防災の大切さなどを知ることができました。
- 自分では距離的に行くことが難しい場所を訪れることができ、とても貴重な体験になりました。伝承施設で学ぶだけでなく、バス車内でもビデオを見ることができて勉強になりました。
- 過去に被災した人だけでなく、国民全体で地震が起きた後に、必ず来るとは言えないが、来てしまったら絶望の災害が存在していることを念頭に置いて生活していかなければ、津波の犠牲になった人に、彼らの未来を生きている我々が示しを付けなければならないと思う。
- 震災の被害の大きさを改めて実感するとともに、建設業者の力で復興が進んだという新しい点も知ることが、実りある研修会になりました。
- 研修を通して震災をテレビの中でしか知らなかった私にとって考えさせられる研修でした。津波の恐怖、避難の重要さ、防災施設の重要さなど様々なことを学びました 。未来の自分のためになる研修でした。
- 町全体で復旧のため努力し、協力してできた建物や道路が多く、人々が経験を学びに変え、対策していることに改めて気づかされました。とても良い経験でした。

【研修会:名　称(アンケート　サンプル)】
3.11 伝承ロード研修会　アンケート

1) お住いの地域
（ _____　都･道･府･県　_____　市･区･町･村）

2) 性別
□ 男性　□ 女性

3) 年代
□ 10歳代　□ 20歳代　□ 30歳代　□ 40歳代　□ 50歳代
□ 60歳以上

4) 2011 年 3 月 11 日以降、東日本大震災の被災地を訪れたことがありますか。
□ある　□ない

5)今回の研修会についてお聞かせください。(☑ チェックしてください)
□とても良かった。
□まあまあ良かった。
□普通だった。
□あまりよくなかった。
□よくなかった

6)訪れる前から興味のあった見学場所や施設はどこですか。
また、訪れた後に印象に残った見学場所や施設はどこですか。（☑ 複数回答可）

施　設　名	興味	印象
震災伝承施設　A	□	□
座学(○○講話)	□	□
復興インフラ見学	□	□
震災伝承施設　B	□	□
その他(　　)	□	□

7) 問 5)で訪れる前から興味があった理由をお聞かせください。

8) 問 5)で訪れた後に印象に残った理由をお聞かせください。

9) 研修会のご感想をご記入ください。

10) (一財)3.11 伝承ロード推進機構に対する要望をお聞かせください。